

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地															
ECCアーティスト美容専門学校	平成15年3月28日	中村 竜二	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西一丁目8番5号 (電話) 06-6373-1447															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地															
学校法人 山口学園	昭和58年11月22日	酒元 英二	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西二丁目3番35号 (電話) 06-6366-0144															
分野	認定課程名	認定学科名	専任	兼任	高度専任	高度専任												
文化・教養	文化教養専門課程	トータルビューティ学科 ヘアメイクアーティストコース	平成20年文部科学大臣告示第153号			-												
学科の目的	本校は、学校教育法及び教育基本法に従い造形教育を基礎として専門技術と知識を教えるとともに、豊かな創造性と進取の気性、自律の精神に富んだ実社会に有用な人材を育成することを目的とする。																	
認定年月日	平成26年3月31日																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技											
3年	昼間	3000単位時間	930時間	2070時間	0時間	0時間	0時間											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
267人の内数	177人	0人	4人	9人	13人													
学期制度	■前期:4月1日から9月30日 ■後期:10月1日から3月31日		成績評価	■成績表 有 ■成績評価の基準・方法 授業出席率が75%以上であること。 総合評価点が60点以上であること。														
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月21日-8月31日 ■冬季:12月20日-1月9日 ■学年末:2月23日-4月12日		卒業・進級条件	卒業の要件) 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 (進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会		課外活動	■課外活動の種類 ハイキング、スポーツ大会、ハロウィンフェスティバル、文化祭、海外研修 等 ■サークル活動: 有														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) ヘアメイク・美容業界 効ヤ、クワディアコスチュームサービス、GARDEN、MODE K's、LIM、at the garden Tokyo、劇団四季、資生堂美容室等 ■就職指導内容 ・業界での就職先とキャリア形成の手法 ・履歴書、面接指導 ・企業紹介と面接対策 ■卒業生数 42 人 ■就職希望者数 40 人 ■就職者数 40 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 95.2 % ■その他 なし (令和 元 年度卒業生に関する 令和2年5月31日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JMAメイクアップ技術検定 3級(取得率)</td> <td>③</td> <td>42人</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td>国際アイラッシュ検定2級</td> <td>③</td> <td>36人</td> <td>26人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 ・ICAMフォトコンペティション ビューティー部門 グランプリ ・IBFフォトコンテスト MAC賞 ・第6回ヘッドアートフォトコンテスト スチューデント部門グラ			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JMAメイクアップ技術検定 3級(取得率)	③	42人	42人	国際アイラッシュ検定2級	③	36人	26人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数															
JMAメイクアップ技術検定 3級(取得率)	③	42人	42人															
国際アイラッシュ検定2級	③	36人	26人															
中途退学の現状	■中途退学者 15名 平成31年4月1日時点において、在学者166名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者151名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 金銭面、進路変更、人間関係等 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		■中退率 9%															
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※特待生制度、学費減免優遇制度、ひとり暮らし支援制度等 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																	
当該学科のホームページURL	URL: <a href="http://art.ecc.ac.jp/">http://art.ecc.ac.jp/</a>																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
 ヘアメイクを中心とした美容分野の知識・技術を幅広く習得するため、ヘアメイク業界を中心とした企業等と連携し、現場の意見・アイデアを導入し、卒業後、即戦力として活躍できるための体制を構築する。  
 ①教育課程編成委員会を設置し、これを年間2回開催することにより企業等との連携を強化するとともに意見・アイデアをカリキュラム反映に活用する。  
 ②協会・企業・サロン等に所属する非常勤講師を含めた会議を年間2回開催し、カリキュラムの確認、意見交換を実施することにより、実践的な授業展開を図るとともに学科としての意志統一を行う。  
 ③特定のカリキュラム設定においては、関連企業等と提携することにより、現場に即した授業展開を図る。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
 教育課程編成委員会は、「教育課程編成委員会規定」に基づき、第2条で記載の通り、当該学科の専攻分野である美容/ビューティ/メイクを中心とした企業、団体等との連携を確保して、授業科目の開設その他教育課程の編成を適切かつ円滑に行う組織として学内に設置されたものである。学内で定例化しているカリキュラム編成会議・責任者会議を経て審議・討議された課題を中心に議題を設定し、これに基づき教育課程編成委員会で討議された結果は、再度、カリキュラム編成会議・責任者会議で具体策等を討議し緊急性/重要性を考慮の上、カリキュラム改善等の対応を実施する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 令和2年7月31日

名前	所属	任期	種別
岡村美香	一般社団法人国際アイラッシュ協会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
宮崎裕輔	株式会社クラフト・ワークス	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
南嘉明	株式会社サラコーポレーション	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
小林三千雄	株式会社モードケイズ	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
中村竜二	ECCアーティスト美容専門学校 学校長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
辻浦誠司	ECCアーティスト美容専門学校 副学校長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回 9月、2月を基本とする。

(開催日時)

第1回 令和元年9月17日 15:30～17:00

第2回 令和2年2月27日 15:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会において①1年生に全員配布予定のiPadの活用、②国際化に関して、③より実践的なカリキュラムに関して、④一般教養/人間力強化等の議論を実施。

iPadの活用に関しては、専門分野授業・英会話授業にて取組みを検討、技術を構築している。国際化に関して、メイク/ネイル専門技術に関する英会話授業にiPadを導入し、興味を持ってサロンワークの接客英会話対応ができる人材育成を目指している。美容サロン現場ではカルテ処理等iPadそのものの使用があるためiPad操作法に慣れることも意義がある状況。

メイク分野でより実践的な技術習得を図るために、必須化しているインターンシップの充実によりサロンワークの実務経験、実践力強化を図っている。また、アイラッシュ技術は美容サロン現場でも重宝される状況であることが委員会内においても確認され、国際アイラッシュ協会とも技術提携を強化し、アイラッシュ技術の向上と検定取得を図る。

人間教育に関して委員会からアドバイスを頂く機会は何度かあったが、企業内でも課題となっており、頂いた意見を学内においても試行錯誤を繰り返している状況。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野であるヘアメイク業界を中心とした企業・協会等と連携し、現場を想定した技術習得ができる実習・演習の設定に繋げる。

特に①公衆衛生面の知識・技術の習得、②現場で活用できる専門技術の習得、③サロンワーク、インターンシップ等による現場を想定した技術の習得 を図る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

ヘアメイクの基礎技術を習得するに当たり、美容/メイク等の技術を実施している美容サロンと提携し、インターンシップ協定書に基づき美容サロンの現場経験をすることにより雑用・アシスタント技術を理解、実践力を高める。

また、サロン即戦力としてのナチュラルメイクとアーティストとしてのショーメイク技術習得に当たり株式会社Demodeが本校と協議の上、授業内容/教材/評価方法を協議の上3月末までにシラバス作成する。年間2回の定例会議を経てDemode社から派遣の講師により授業実施、評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
サロンワーク	メイクアップ技法やお客様へのアドバイス、接客技術のレベルアップを図ります。	株式会社Demode
インターンシップ(TS/HM)	メイクサロン・トータルビューティサロン・美容室での見学実習を通して、サロンワークの流れや業務を知り、就職希望職種選択や企業選択につなげていきます。	株式会社クラフトワークス 株式会社モードケイズ 株式会社サラコーポレーション

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係							
<p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  教務規約第35条に従って、教育の一層の充実を図るため、企業、団体等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修等や指導力の修得・向上のための研修等を実施する。  研修企画部門を組織して指導力の修得・向上のための研修等の年間計画を年度初めに計画し、教育進捗状況に合わせて内容・時期を調整しながら設定する。また、専攻分野における実務研修はJMA技術研修への教員研修参加を定例化し、それに加えて必要な研修を確認し設定する。</p>							
<p>(2)研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>1)研修名「ジャパンビューティ・メソッド協会(JBMA)ヘアメイク技術研修1」  (連携企業等:主催「ジャパンビューティ・メソッド協会」、講師「ジャパンビューティ・メソッド協会認定講師」)  期間:令和元年9月11日～9月13日 対象:専任、兼任教員  内容:ジャパンビューティ・メソッド協会(JBMA)Expertメイク技術に関する研修</p> <p>2)研修名「ジャパンビューティ・メソッド協会(JBMA)ヘアメイク技術研修2」  (連携企業等:主催「ジャパンビューティ・メソッド協会」、講師「ジャパンビューティ・メソッド協会認定講師」)  期間:令和2年2月19日 対象:専任、兼任教員  内容:ジャパンビューティ・メソッド協会(JBMA)Professionalメイク技術に関する研修</p>							
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>1)研修名「クラスワーク研修」  (連携企業等:「一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会」、講師「梶山 武志」)  期間:令和元年4月23日、5月14日、6月11日(3回) 対象:専任教員、教務スタッフ  内容:クラスワークの対応</p> <p>2)研修名「SNSコミュニケーション研修」  (連携企業等:「株式会社ジェイコムウエスト」、講師「栗津千草」)  期間:令和元年4月23日、5月14日、6月11日(3回) 対象:専任教員、教務スタッフ  内容:SNSコミュニケーションの課題と対策</p> <p>3)研修名「「聞く」研修」  (連携企業等:「有限会社ビー・コーポレーション」、講師「山下義弘」)  期間:令和元年9月18日13:30～16:00 対象:専任教員、教務・進路・入試課スタッフ  内容:「聞き方」の極意を学ぶ研修</p> <p>4)研修名「ケーススタディ研修」  (連携企業等:「一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会」、講師「梶山 武志」)  期間:令和元年9月24日、10月3日、11月12日、12月4日(4回) 対象:専任教員、教務スタッフ  内容:クラス運営で抱えている課題、上手対応できている点</p>							
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>1)研修名「ジャパンビューティ・メソッド協会(JBMA)ヘアメイク技術研修1」  (連携企業等:主催「ジャパンビューティ・メソッド協会」、講師「ジャパンビューティ・メソッド協会認定講師」)  期間:令和2年11月16日～11月18日 対象:専任、兼任教員  内容:ジャパンビューティ・メソッド協会(JBMA)Professionalメイク技術に関する研修</p>							
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>1)研修名「ICT研修(1)」  (連携企業等:株式会社ロイロ、講師「認定ティーチャー シンキングツールアドバイザー」)  期間:令和2年4月28日 対象:専任教員、教務スタッフ  内容:Formsの活用手法</p> <p>2)研修名「ICT研修(2)」  (連携企業等:株式会社ロイロ、講師「認定ティーチャー シンキングツールアドバイザー」)  期間:令和2年6月17日、6月30日(2回) 対象:専任教員、教務スタッフ  内容:ロイロの活用手法</p>							
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係							
<p>(1)学校関係者評価の基本方針  本校では「学校評価実施規定」に則り、年間2回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2018年度は9月13日、3月11日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2018年度改善された項目として、全員参加を前提とした教職員ミーティングの定例化、掲示板アプリの導入による教職員/学生との情報共有の強化、校舎の拡充による教育環境の整備、英会話授業へのiPad導入等が挙げられる。なお、2018年度の自己評価報告書ならびに「学校関係者評価報告書」を学園ホームページ上に公開している。</p>							
<p>(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>学校における職業教育の特色は何か</li> <li>社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>(2)学校運営</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>学校における職業教育の特色は何か</li> <li>社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>	(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目						
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>学校における職業教育の特色は何か</li> <li>社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>						
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>						

(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員的能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会において出された①最新技術の導入、②インターンシップ強化、③iPad・ICT強化、④コンテスト・検定実績の向上 ⑤退学抑止等の課題を中心にその対応を実施、検討中。

①、②に関しては、カリキュラムに連動して企業提携を進めながら対応中。

③に関しては専門分野授業・英会話授業にて取組みを検討、技術を構築している。

④に関しては新たな検定を取り入れ、通常授業のカリキュラムに加えて短期集中授業、特別対策授業等の実施。

⑤に関しては学校全体の取組として教員研修、実践行動学のカリキュラム導入等の対応を実施。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
宮崎裕輔	株式会社クラフト・ワークス	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	分野企業
永倉瑞恵	一般社団法人JMA	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	分野協会
相良知之	資生堂プロフェッショナル株式会社	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	分野企業
貴治康夫	立命館高等学校	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	高校等関係者
中上隆雄	済美地域社会福祉協議会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	地域関係者
高野圭梨	卒業生	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( )) 令和元年9月30日、令和2年3月31日

URL:<http://art.ecc.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」附属資料5「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨および取組に当たっての視点、情報提供の内

容・方法に則り、本校が設定する項目について本校及び学園のホームページ上で広く一般に公開するものとする。連携および協力する企業等の学校関係者に対してもホームページ上で公開している情報を提供するとともに、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等の委員会を通じて本校の教育活動その他の学校運営の状況について理解を深めていただくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数 ・カリキュラム(科目配当表(科目編成・授業時数) ・進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・終了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定 ・資格取得、検定試験合格等の実績 ・卒業者数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み状況 ・実習・実技等の取り組み状況 ・就職支援等への取り組み支援 ・企業・施設、業界団体等との連携によるカリキュラムの改善
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況、課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い(金額、納入時期) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8)学校の財務	・貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	・留学生の受入れ・派遣状況 ・外国の学校等との交流状況
(11)その他	・学則 ・学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<http://art.ecc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程トータルビューティー学科ヘアメイクアーティストコース) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		メイクアップ I (HM)	メイク基礎技術と発想力を高めます。	1前	30	4	○			○	○	○		
2	○		メイクアップ II (HM)	イメージメイク技術や作品表現技術を習得します。	1後	45	6	○			○	○	○		
3	○		メイクアップ テクニク(HM/TS)	JBMAメイクアップ検定BASIC取得を目指します。	1前	30	4	○			○	○	○		
4	○		皮膚理論/化粧品心理学	皮膚の構造・働き・トラブル等の皮膚基礎知識と理論の習得を目標とします。化粧する人間の心と行動から、コミュニケーションや健康面における化粧の機能を学習します。	1前	15	2	○			○		○		
5	○		クリエイティブワーク	デザイン作画を通してデザイン力を高め、作品制作で創造力を養います。	1前	15	2	○			○		○		
6	○		フォトワーク	照明やカメラについての知識や写真の撮り方を学習するとともに、撮影時のメイク技術を習得します。	1後	30	4	○			○		○		
7	○		ヘアアレンジメント I	ブラッシング・コーミング、ブロッキング、ピン止め・ゴム止め、コテ、ホットカーラー等ヘアアレンジの基礎技術を習得します。	1前	45	6	○			○		○		
8	○		ヘアアレンジメント II	夜会巻・カールアップ・日本髪等のヘアアレンジテクニクを習得します。	1後	45	6	○			○		○	○	
9	○		カラーコーディネーション(HM)	「色の三属性」「配色」「トーン」等、実習を通して色彩の基礎を習得します。	1後	15	2	○			○		○	○	
10	○		デッサン・ファッションイラストレーション(HM)	ヘアデザイン構成をイラスト表現し、サロンでお客様に提案できるスキルを身につけるために学びます。	1前	15	2	○			○		○		
11	○		アシスタントスキルズ	様々な現場、シチュエーションに通用するアシスタントスキルを身につけます。	1後	15	2	○			○		○		

12	○		接客基礎	プロのヘアメイクに必要な「接客の基礎知識」と「接客の基礎技術」を学習します。	1 前	15	2	○			○			○
13	○		ファッショントレンド(HM)	グループワークや色彩コーディネートを通して自分自身の内面・外面の美しさを伸ばす力を養います。ファッションの特徴やトレンド、シルエット、柄、スタイルを学習します。	1 後	15	2	○			○		○	○
14	○		インターンシップ(HM)	メイクサロン・トータルビューティサロン・美容室での見学実習を通して、サロンワークの流れや業務を知り、就職希望職種選択や企業選択につなげていきます。	1 後	15	2		○		○		○	○
15	○		Active English 101	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	1 前	15	2	○			○			○
16	○		Active English 102	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	1 後	15	2	○			○		○	○
17	○		業界研究 I (HM)	ヘアメイク業界の概況・企業特性等について自ら調べる方法を学び、十分な業界研究を経て希望する企業選択やキャリアプランニングを行います。	1 後	15	2	○			○		○	○
18	○		美容演習 I	ワインディングを中心に美容の基礎を学び、美容師国家資格取得を目指します。	1 前	15	2		○		○		○	
19	○		美容演習 II	オールウェーブセッティング実習を中心に、美容師資格取得を目指します。	1 前	15	2		○		○		○	
20	○		コミュニケーション I	自己理解を深め、自己も他者も大切にするためのコミュニケーション力を高めます。	1 後	15	2	○			○		○	
21	○		コミュニケーション II	自己理解を深め、自己も他者も大切にするためのコミュニケーション力を高めます。	1 前	30	4	○			○		○	○
22	○		SIC[1]	夏季に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	1 後	30	4	○			○		○	○
23	○		SPIC[1]	春季に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	2 後	15	2	○			○			○
24	○		アーティスティックメイクアップ I	年代別メイク、ポイントアートを学習し、技術の幅を広げます。デザイン工程・作品撮影を通して自由な発想力と高い技術を習得します。	2 前	45	6		○		○			○

25	○		アーティストックメイクアップⅡ	基本的な舞台メイク技術からアレンジ技術を習得し、作品制作で個性豊かな作品制作を目指します。	2後	45	6		○	○	○			
26	○		プロフェッショナルメイクアップⅠ	メイクデザイン理論を理解して、デザインメイク力を高め、骨格を理解し、顔分析メイクを習得します。	2前	45	6		○	○	○			
27	○		プロフェッショナルメイクアップⅡ	ブライダルメイクや撮影メイクの知識と技術を習得する。デモンストレーション・プレゼンテーション等が出来るよう人前での実技能力を高めます。	2後	45	6		○	○	○	○		
28	○		ヘアアレンジメントⅢ	様々なヘアアレンジテクニックを組み合わせ、トータル的に考えたヘアアレンジ・スタイリング技術を習得します。	2前	30	4		○	○	○	○		
29	○		ヘアアレンジメントⅣ	ブロースタイリング・和髪・カウンセリングなど実戦に本当に必要なヘアアレンジテクニックを習得します。	2後	30	4		○	○	○	○		
30	○		アドバンスヘアメイクⅠ	ウェット・ドライ マット等 質感に着目したヘアメイク技術を習得します。	2前	15	2		○	○	○	○		
31	○		アドバンスヘアメイクⅡ	Ⅰに引き続き、質感に着目し、リファレンスの集め方、コンセプトの考え方学び、プレゼンテーションすることにより表現力を磨きます。	2後	15	2		○	○	○	○		
32	○		アシスタント スキルズ	様々な現場、シチュエーションに通用するアシスタントスキルを身につけます。	2後	15	2		○	○	○	○		
33	○		着付Ⅰ	小紋・浴衣等、基本的な着物の着付と基礎知識を習得します。	2前	30	4		○	○	○	○		
34	○		着付Ⅱ	留袖・振袖・袴の着付と礼装着付の知識及びさまざまな帯結びを習得します。	2後	30	4		○	○	○	○		
35	○		Active English 201(HM)	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	2前	15	2	○		○		○		
36	○		Active English 202(HM)	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	2後	15	2	○		○		○		
37	○		業界研究Ⅱ(HM)	ヘアメイク業界の概況・企業特性等について引き続き自ら調べる方法を学び、より一層十分な業界研究を経て、希望する企業の選択やキャリアプランニングを行います。	2前	15	2	○		○		○	○	



38	○		就職対策 I	自分をアピールする方法や履歴書の書き方の基本を学習し、希望する職業に就けるよう具体的に準備を行っていきます。	2 後	15	2	○			○	○		
39	○		美容演習Ⅲ	ワインディング、オールウェーブセッティングのタイムアップ、完成度アップを目指します。	2 前	15	2	○			○	○	○	
40	○		美容演習Ⅳ	カット技術を中心に、美容師国家資格取得を目指します。	2 後	15	2	○			○		○	
41	○		コミュニケーションⅢ	社会生活において他者と円滑に意思の疎通が行える力を様々なワーク、取り組みを通して高めます。	2 前	15	2	○			○	○		
42	○		SIC[2]	夏季に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	2 前	30	4	○			○	○	○	
43	○		SPIC[2]	春期に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	2 後	30	4	○			○	○	○	
44	○		ヘアアレンジメントⅥ(制作・実践力)HM	サロンワークに必要な技術や実践につながる技術の習得。シャンプー・トリートメント・カラー技法を学びます。コレクション制作を行います。	3 後	30	4		○		○		○	
45	○		ヘアアレンジメントⅤ	2年生までの技術の応用。現場で役立つヘアアレンジの技術を習得する。	3 前	30	4		○		○		○	
46	○		メイクアップ カウンセリング(HM)	JMAメイクアップ技術検定1級取得を目指します。	3 前	30	4		○		○	○	○	
47	○		サロンワーク	C&GM-LEVEL1のガイドラインに沿って、メイクアップ技法やお客様へのアドバイス、接客技術のレベルアップを図ります。	3 後	30	4		○		○		○	○
48	○		着付Ⅲ(HM)	着付プロレベルとして、体型、年齢、TPOに合わせた補整・着付け方を学びます。	3 前	30	4		○		○		○	
49	○		着付Ⅳ(HM)	プロとして、与えられた時間内で技術を行います。更に、トータルバランスを考えた着付を学習します。振袖の帯び結びのバリエーションを増やし、成人式、卒業式に対応出来る技術を習得します。	3 後	30	4		○		○		○	
50	○		Active English 301(HM)	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	3 前	15	2	○			○		○	

51	○		Active English 302(HM)	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	3後	15	2	○			○			○
52	○		就職対策Ⅱ	多様化する面接試験内容に対応し、面接時の応答力やアピール力を習得し就職試験の突破を目指します。	3前	15	2	○			○		○	○
53	○		コミュニケーションⅣ	社会生活において他者と円滑に意思の疎通が行える力を様々なワーク、取り組みを通して高めます。	3後	15	2	○			○		○	○
54	○		SIC[3]	夏季に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	3前	15	2	○			○			○
55	○		美容演習Ⅴ	カット技術のタイムアップ完成度アップを中心に、美容師資格取得を目指します。	3後	15	2		○		○		○	○
56	○		美容演習Ⅵ	カット技術のタイムアップ完成度アップを中心に、美容師資格取得を目指します。	3前	30	4		○		○		○	○
57		○	選択aグローバルアーティストヘアメイクⅠ	現役プロヘアメイクアーティストから現場で必要なヘアメイク知識を学びます。	3後	60	8		○		○		○	
58		○	選択bプロフェッショナルヘアメイクアップⅠ	ライティング等を意識したショー・TV・撮影メイク技術を習得します。	3前	60	8		○		○		○	○
59		○	選択cヘアメイクⅠ(フィッティング・ブライダルヘアメイク)	ヘアメイク技術とともに、どの世代にも対応できる接客術、カウンセリング術、衣装フィッティング、和装着付けなどを学びます。	3前	60	8		○		○		○	○
60		○	選択aグローバルアーティストヘアメイクⅡ	現役プロヘアメイクアーティストから現場で必要なヘアメイク知識を学ぶ・ポートフォリオディレクションプロモデル(外人モデル)を使用した撮影を実施します。	3前	60	8		○		○		○	○
61		○	選択bプロフェッショナルヘアメイクアップⅡ	トレンドを意識したアーティストメイク技術の習得、また学んだ技術を活かし、作品撮影を行います。	3後	60	8		○		○		○	○
62		○	選択cヘアメイクⅡ(フィッティング・ブライダルヘアメイク)	ヘアメイク技術とともに、どの世代にも対応できる接客術、カウンセリング術、衣装フィッティング、和装着付けなどを学びます。	3後	60	8		○		○		○	○
63		○	選択aシャンプー&ブロー	サロン入店試験、ヘアメイクアシスタント希望者に必要なブロー技術をウイッグで基礎、相モデルで実践して行います。	2前	30	4		○		○		○	○

64	○	選択bアイラッシュ(HM3)	アイラッシュ(まつげエクステ)の基礎技術を習得し、幅広く学び即戦力となる力を習得します。	3前	30	4	○	○	○										
65	○	選択cアイラッシュ(HM3)	アイラッシュ(まつげエクステ)の基礎技術を習得し、幅広く学び即戦力となる力を習得します。	3前	30	4	○	○	○										
66	○	選択aエアブラシ(アート)	エアブラシの技術を習得し、メイクアップアーティストとしての対応範囲を広げます。	3後	30	4	○	○	○										
67	○	選択bシャンプー&ブロー	サロン入店試験、ヘアメイクアシスタント希望者に必要なブロー技術をウィッグで基礎、相モデルで実践して行います。	3後	30	4	○	○	○										
68	○	選択c フラワー	フラワーデザイン全般の基礎を学びます。。色々なフラワーデザインを実践的に学びイメージスケール制作ができるようにします。	3後	30	4	○	○	○										
合計				68科目	3000単位時間(200単位)														

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①卒業要件：各学年58単位（卒業年次は54単位）を修得しているものに対して、学年末に進級・卒業判定会議を開催し、学校長が進級・卒業を認定する。 ②履修方法：選択必須科目については、専攻等により事前に選択する。必須科目については自動的に登録される。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。